科目名	人間の尊厳と自立	1	介護福祉学			授業方法	 講義		
	藤原 芳朗	•		<sup>114</sup>  時間数	30 時間	必須・選択	<del></del> 必須		
授業概要	藤原 芳朗 学年・学期 1年・前期 時間数 30 時間 必須・選択 必須 「人間」その「生活」とは何かを基本に、各ライフステージの特徴や課題を理解し、日常生活を営むことが 困難になった人たちに対する支援のあり方について論じる。また、人間の尊厳と人権・福祉理念について学ぶとともに、生活者の視点としての自立の概念について認識させる。								
到達目標	1)人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解する 2)人間にとっての自立の意味と本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する 3)介護における尊厳の保持・自立支援のための基礎的能力を習得する								
		授業計	画•内容						
第1週	人間とその特性―多面的理解の』	必要性							
第2週	人間の尊厳―概念と歴史性の理解	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
第3週	人間の尊厳―利用者主体の考え	方							
第4週	人権・福祉の理念―人権思想の歴	生史的展開(	ジェンダー・え	差別・性なる	ビ)				
第5週	人権・福祉の理念―人権尊重(生	存権、自由権	権、平等権な	ど)					
第6週	人間の生活―その歴史的・社会的	展開							
第7週	人間の生活―ノーマライゼーション	,							
第8週	人間の生活—QOL(生命、生活、,	人生の質)							
第9週	生命倫理—遺伝子診断、死生観、	QOD(死の	質)など						
第10週	自立・自律の概念と生活支援の理	解							
第11週	自立生活―ライフサイクルに応じた	と生活の自	立						
第12週	尊厳の保持と自立のあり方―権和	擁護、アド	ボカシー						
第13週	尊厳の保持と自立のあり方―自己	!決定、自己	選択						
第14週	尊厳の保持と自立のあり方―イン	フォームドニ	コンセント、イン	ノフォーム	ドアセント、!	Jビングウイ/	L		
第15週	まとめと試験								
評価方法	試験、出席、授業態度によって総合的に評価する。								
教科書 教材など	「医療福祉と財政 講義ノート」								
実務経験						のある教員に 受業科目	よる		

科目名	人間関係とコミュニケーション I	学科名	介護福祉学	科		授業方法	講義
担当教員	岡崎 利治	学年·学期	1年•前期	時間数	30 時間	必須·選択	必須
•	人間関係の基礎理論にふれ、現代 用者や家族等の人間関係について ションのプロセスとメカニズムについ	ても講義する	5。人間関係				
到達目標	戦後、社会の変容とともに、人間関 人間関係の基礎的な理論について 人間関係形成の有効な手段でもあ 相互行為としてもコミュニケーション	て理解する。 うるコミュニク	ァーションの	基礎知識を	修得する。		0
		授業計	画·内容				
第1週	現代社会の人間関係と価値観、人	、間関係の希	<b>詩神化、個人</b>	化			
第2週	人間関係と心理—自己覚知、他者	†理解、ラポ	ール				
第3週	対人関係とコミュニケーション―コ	ミュニケーシ	ョンの意義・	目的			
第4週	対人関係とコミュニケーション―コ	ミュニケーシ	ョンの特徴・	過程			
<b>一</b> 中 5 - 1 - 1	対人関係とコミュニケーション―コ:現)、ボライトネス(相手を尊重する			境・アサー	-ティブネス (	(自他を尊重)	した自己表
第6週	コミュニケーションの基礎理論						
第7週	コミュニケーション技法の基礎―物	理的、心理	的距離の、現	里解、環境	整備		
第8週	コミュニケーション技法の基礎―受	容、共感、	頃聴				
第9週	相談面接の基礎―バイステックの	原則、マイク	7ロカウンセ!	リング、感情	∮の転移∙逆	転移	
第10週	言語的・非言語的コミュニケーショ	ン					
第11週	組織におけるコミュニケーション						
第12週	介護現場で必要とされるコミュニケ	ーションの	カ				
第13週	リーダーシップと小集団のダイナミ	ックス					
第14週	組織における情報の流れとネット「	フーク					
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	到達度評価と、出席状況、講義中	の提出物を	加味し評価す	ける			
教科書 教材など	「人間の理解」中央法規出版						
実務経験						のある教員に 受業科目	よる

科目名	社会の理解	学科名	介護福祉学		• •	授業方法	 講義
	五嶋幹雄		1年・前期	  - 時間数	30 時間	必須·選択	
	個人が自立した生活を営むという 隣、地域、社会)を理解する視点を 制度や施策について教授する。新 る。家族及び地域社会に重点を置 いても論ずる。	ことを理解す 養い、社会 聞記事やテ	「るため、個や と人間の生活 ・レビニュース	ウ集団、社: きのしくみ t などを切り	▲の単位(個 ら、地域共生 ロとして、ヨ	■人、家族、 国人、家族、 三社会の実現 見代社会の特	社会、近 に向けた 持質を論じ
到達目標	① 社会理論による現代社会の捉② 生活の基本機能と福祉につい③ 社会と生活について理解できる④ 社会問題について理解できる。	て理解できる。					
		授業計	·画·内容				
第1週	家庭生活の基本機能						
第2週	現代社会における家族(1)						
第3週	現代社会における家族 (2)						
第4週	社会・組織の機能と役割、地域、地	也域社会					
第5週	地域社会における生活支援						
第6週	地域福祉の発展						
第7週	地域共生社会						
第8週	地域包括ケア						
第9週	社会保障の基本的な考え方						
第10週	日本の社会保障制度の発達						
第11週	日本の社会保障制度のしくみ						
第12週	年金保険、医療保険						
第13週	介護保険、労働保険						
第14週	現代社会と社会保障制度						
第15週	まとめと試験						
評価方法	提出物、出席状況、出席態度、試	験で評価す	る。				
教科書 教材など	「社会の理解」中央法規出版						
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所	こて3年従事				のある教員に 受業科目	よる

5J D A	ZUZO++);  主於来伝知る				• /	122 米十二十	=# <del>*</del>
科目名	高齢者福祉論		介護福祉学		00 54 55	授業方法	講義
担当教員	藤原芳朗	学年·学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須·選択	必須
授業概要	  高齢者の生活実態とこれを取り巻						
授業内容	含む)について理解する。高齢者が  動において必要になる介護保険制						
到達目標	介護保険制度を中核とした高齢者る。			援助活動に	□関わる法制	削度について	理解を得
		授業計	画•内容				
第1週	少子・高齢社会の実相						
第2週	高齢者の生活実態とこれをとりまく	社会情勢 ————					
第3週	生活構造の変容と高齢者の生活	<b>E態</b> 					
第4週	ライフサイクルからみた高齢期の物	寺徴 —————					
第5週	高齢者福祉の変遷―措置制度か	ら契約制度	^				
第6週	高齢者の介護保障―老人福祉法						
第7週	高齢者の介護保障—介護保険法-	—老人保健 ————	法の改正				
第8週	高齢者の介護保障—介護保険法						
第9週	介護保険法におけるサービス提供	·体制					
第10週	地域包括支援センターの役割と実	<b>際</b>					
第11週	高齢者の住まいと施策						
第12週	高齢者虐待の防止、高齢者の養語	養者に対する	る支援などに	関する法律	⊒理解		
第13週	セルフネグレクト						
第14週	高齢期の住まい:高齢者の居住の	安定確保に	関する法律				
第15週	まとめ						
評価方法	試験、提出物、出席状況で評価す	る					
教科書 教材など	適宜提示する						
実務経験						のある教員に 受業科目	よる

科目名		学科名	介護福祉学			授業方法	 講義			
	木村智恵		1年・後期	<del>11</del> 一時間数	30 時間	必須·選択	<del></del>			
授業概要	尊厳の保持、自立支援の観点から児童の理解、児童福祉制度の基盤のうえに、各々の児童福祉の課題・ニーズに対応した、施策について教授する。また、家庭機能の低下の現状とそれを補完する施策やボランタリーセクションの支援について講義する。									
到達目標	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力など)について自立支援の視点を基盤とする視点をもって理解する。児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。児童の権利、尊厳の保持について理解する。相談援助活動に必要な児童・家庭福祉制度とこれに係る他の法制度について理解する。									
		授業計	画・内容							
第1週	児童の定義と権利									
第2週	児童・家庭の生活実態とこれを取	り巻く社会情	勢							
第3週	児童・家庭を取り巻く福祉需要									
第4週	児童・家庭福祉制度の発展過程									
第5週	児童福祉法									
第6週	児童虐待防止法·D.V法									
第7週	母子及び寡婦福祉法・売春防止流	去∙母子保健	法·児童手当	i法						
第8週	児童扶養手当法・特別児童扶養等	手当等の支絲	合に関する法	律						
第9週	次世代育成支援対策推進法・少一	子化社会対策	<b>策基本法</b>							
第10週	児童・家庭福祉制度における組織	及び団体の	役割と実際							
第11週	児童・家庭福祉制度における専門	職の役割と	実際							
第12週	児童・家庭福祉制度における多職	え は種連携、ネ <sup>・</sup>	ットワーキング	ゲと実際						
第13週	制度以外の児童への支援									
第14週	児童相談所の役割と実際									
第15週	まとめ・定期試験									
評価方法	試験・出席、提出物で評価する。									
教科書 教材など	授業ごと資料を作成し配付する。									
実務経験	医療ソーシャルワーカー4年、社会 あり。	会福祉協議会	会にて15年9	<b>ミ務経験</b>		のある教員に 受業科目	よる			

科目名	社会福祉概論		介護福祉学		• ,	授業方法	 講義			
	五嶋幹雄		1年・後期	<u>''</u> 時間数	30 時間	必須·選択				
授業概要	高齢者保健福祉について論じ、介護保険制度発祥から制度のしくみや専門職について授業を展開する。個人の権利を守る制度、保健医療に関する制度、貧困と生活困窮に関する制度、地域生活を支援する制度についても教授する。									
到達目標	高齢者保健福祉と介護保険制度について知り、介護の必要な人を理解する。障害者保健福祉と障害者総合支援制度について知り、介護の必要な人について理解する。介護実践に関連する諸制度を知り、社会関係のなかで対象者を理解する力を養う。									
		授業計	画·内容							
第1週	高齢者保健福祉の動向、高齢者の	保健福祉に	関連する法体	系						
第2週	介護保険制度―制度創設の背景。	と目的								
第3週	介護保険制度―制度のしくみの基	本的理解								
第4週	介護保険制度―組織、団体の役割	Ŋ								
第5週	介護保険制度—介護専門職の役	割								
第6週	介護保険制度の動向									
第7週	障害者保健福祉の現状と動向、障	書者の定義	复							
第8週	障害者保健福祉に関する制度									
第9週	障害者総合支援制度—目的、役割	削、給付・事	業、財源と利	用者負担						
第10週	障害者総合支援制度―サービスの	り種類と内容	字、利用手続	<b>*</b>						
第11週	障害者総合支援制度—障害区分	の認定、相談	淡支援事業と	:相談支援	専門員					
第12週	個人の権利を守る制度									
第13週	保健医療に関する制度									
第14週	貧困と生活困窮に関する制度、地	域生活を支	援する制度							
第15週	まとめと試験									
評価方法	試験と授業態度、提出物、出席等	で評価する								
教科書 教材など	「社会の理解」中央法規出版									
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所(	 こて3年従事				のある教員に 受業科目	よる			

科目名		1	介護福祉学		• /	授業方法	講義
担当教員			1年•前期	<u>' '</u> 時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要	介護に関する理念・定義・目的・歴 士の役割と機能を踏まえ、利用者 る。授業方法は、講義を中心とする	・ 史性・社会 主体の考え	的背景など基 方と人権保障	基礎的な知 章、ノーマラ	識について イゼーション	論じる。また。 ンの理念につ	、介護福祉
到達目標	①介護の成り立ち、介護福祉士のする ②介護福祉士の基本理念を支える ③介護福祉士の役割と機能を支え ④尊厳を支える介護の目的と意義 ⑤自立に向けた介護の目的と意義 ⑥介護の原則、立脚点を理解する	る仕組みの! こる仕組みの について理 気について理	理解 D理解 !解する	の社会背景	、介護の概	念の変遷に	ついて理解
		授業計	画∙内容				
第1週	介護福祉士を取巻く状況介護福祉	上士の誕生の	D社会的背景	1			
第2週	介護概念の変遷―社会の変化とか	介護福祉の	歴史① 制度	を化以前の:	介護		
第3週	介護概念の変遷―社会の変化とか	介護福祉の	歴史② 家族	・地域の変	き化		
第4週	介護概念の変遷―社会の変化とな	介護福祉の	歴史③ 介護	養需要の増	DD D		
第5週	介護概念の変遷―社会の変化とか	介護福祉の	歴史④ 介護	ぎの社会化 しょうしん			
第6週	介護福祉の基本理念―尊厳の持・	つ意味と歴	史性				
第7週	介護福祉の基本理念―利用者主	体の考え方	と人権保障、	ノーマライ	ゼーションに	こついて	
第8週	介護福祉の基本理念―自立に向い	けた介護(自	立の概念と	意義の理解	≩)		
第9週	介護福祉士の役割と機能―社会社	福祉士及び:	介護福祉士法	去			
第10週	介護福祉士の役割と機能―介護社	福祉士の活	動の場①				
第11週	介護福祉士の役割と機能―介護社	福祉士の活	動の場②				
第12週	介護福祉士の役割と機能―自立を	を支える介語	隻				
第13週	介護福祉士養成カリキュラムの変	 遷					
第14週	介護福祉士を支える団体						
第15週	まとめと試験						
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状	:況および学	習の理解度	、関連知識	の理解度で	5総合的に評	価する
教科書 教材など	「介護の基本Ⅰ」中央法規出版						
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の組 得。	経験あり。介	↑護福祉士 <i>の</i>	免許取		のある教員に 受業科目	よる

科目名	介護福祉論Ⅱ		介護福祉学			授業方法	 講義			
担当教員			1年・後期	<u>' '</u> 時間数	30 時間	必須•選択				
授業概要	要介護者の生活実態を知り、介護福祉における自立に向けた介護の意義について、要介護者の生活実態に則して、生活障害の改善や家族支援の実際について事例を交えて教授する。また、介護予防、リハビリテーション等の意義や方法についても論じる。									
到達目標	②ICFの考え方とアセスメントの視 ③自立支援とエンパワメント、スト	D自立に向けた介護福祉のあり方について理解する DICFの考え方とアセスメントの視点を理解する B自立支援とエンパワメント、ストレングスの視点を理解する D介護予防ととリハビリテーションの意義と方法について理解する								
		授業計	画·内容							
第1週	介護福祉士の倫理と専門性―職訓	業倫理の意	義—							
第2週	介護福祉士の倫理と専門性―法会	<b></b> 令順守—								
第3週	介護福祉士の倫理と専門性―日本	本介護福祉:	士会倫理綱領	頁、行動規則	範—					
第4週	利用者理解の視点に基づく自立に	向けた介護	養—ICFの考え	5方—						
第5週	利用者理解の視点に基づく自立に	向けた介護	隻―エンパワ	メント、スト	レングス、意	思決定支援	_			
第6週	生活意欲と活動―社会参加(役割	、趣味、レク	フリエーション	など)						
第7週	生活意欲と活動—アクティビティ、	就労支援								
第8週	自立支援とリハビリテーション―生	活を通した	リハビリテー	ション—						
第9週	自立支援とリハビリテーション―リ	ハビリテーシ	ションと介護う	多防—						
第10週	自立支援とリハビリテーション―バ	バリアフリーと	ニユニバーサ	ルデザイン	<b>'</b> —					
第11週	自立支援と介護予防―介護予防(	の概要								
第12週	自立支援と介護予防―高齢者の身	身体特性とか	<b>个護予防</b>							
第13週	自立支援と介護予防―介護予防(	の実際―								
第14週	自立支援と介護予防介護予防(	こおける介語	護福祉士の役	:割—						
第15週	まとめ									
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状	えいまなび学	望の理解度	、関連知識	の理解度で	ぎ総合的に評	価する			
教科書 教材など	「介護の基本Ⅰ」中央法規出版									
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の 得。	経験あり。介	護福祉士の	免許取		のある教員に 受業科目	よる			

	2023+1	又汉本	<u> </u>		• /				
科目名	レクリエーション概論	学科名	介護福祉学	:科		授業方法	講義		
担当教員	秋政 邦江	学年·学期	1年•前期	時間数	30 時間	必須·選択	必須		
授業概要 ・ 授業内容	日常生活支援におけるレクリエー: 立に向けた介護をすることの意義。 るスポーツ指導の方法を教授する	と効果につい							
到達目標	日常生活活性化させる活動の基本的知識の理解および高齢者、障がい児・者等に応じた支援のあり方を理解する。また、障がい児・者や高齢者等を対象とするスポーツ指導の方法を習得する。								
		授業計	画∙内容						
第1週	レクリエーション活動援助法 -IC	Fの視点から	ò-						
第2週	高齢者や障がい児・者等の生活の	快適性とレ	クリエーショ	ン					
第3週	日常の生活支援に果たすレクリエ	一ションの名	) 割						
第4週	障害に応じた(身体障害、知的障害	害、内部障害	层、精神障害	等)のレク!	ノエーション	の意義、目的	力、方法		
第5週	自立を支援する介護予防としての	レクリエーシ	ョン指導方法	去					
第6週	高齢者、障がい児・者等のスポーツ	ソの捉え方 <sup>く</sup>	やその意義、	理念					
第7週	生活環境(施設、在宅)におけるレ	クリエーショ	ンと安全管理	里					
第8週	自立を支援する介護予防としての	スポーツ指導	<b>尊方法</b>						
第9週	スポーツ指導におけるボランティア	'活動の必要	・ ボランテ	イア精神と	:活動の基本	×姿勢 I			
第10週	スポーツ指導におけるボランティア	'活動の必要	₹性:ボランテ	イア精神と	:活動の基本	≤姿勢Ⅱ			
第11週	ゲストスピーカー:スポーツ活動を	している障か	い者の体験	談					
第12週	ゲストスピーカー:スポーツ活動を	している障か	い者の体験	談					
第13週	レクリエーション・プログラムの計画	可立案							
第14週	レクリエーション・プログラムの計画	到発表 							
第15週	到達度評価								
評価方法	レポート、授業態度、出席状況およ		里解度、関連	知識の理角	――― 経度で総合的	的に評価する	)		
教科書 教材など	「楽しさをとおした心の元気づくり -	・レクリエー・	ション支援の	理論と方法					
実務経験						のある教員に 受業科目	よる		

科目名	社会福祉援助技術	1	介護福祉学		- •	授業方法	講義		
	五嶋 幹雄	•	1年・後期	<u></u> 時間数	30 時間	必須·選択	必須		
授業概要授業内容	介護や相談援助におけるコミュニケーションの基本、利用者や家族との介護場面や面接でのコミュニケーション技術、チームによるコミュニケーションの必要性とその情報の共有化の方法について学ぶ。								
到達目標	介護や相談援助の対象者やその家族の理解、そして多職種協働に必要とされるコミュニケーション能力 を身につけることができる。								
		授業計	画•内容						
第1週	介護福祉における社会福祉援助抗	技術の意義							
第2週	介護におけるコミュニケーションの	基本							
第3週	援助関係とコミュニケーション								
第4週	コミュニケーションの基本技術 [								
第5週	コミュニケーションの基本技術 II								
第6週	コミュニケーションの基本技術Ⅲ								
第7週	言語・非言語・準言語コミュニケー	ションの基本	<b>x</b>						
第8週	目的別コミュニケーション技術								
第9週	意思決定を支援するためのコミュニ	ニケーション							
第10週	集団におけるコミュニケーション技	術							
第11週	記録の技術 I								
第12週	記録の技術Ⅱ								
第13週	家族とのコミュニケーション								
第14週	家族関係と介護ストレスへの対応								
第15週	試験とまとめ								
評価方法	レポート、試験、学習の理解度、授	受業の参加な	<b>犬況、授業態</b> /	度で評価す	-る				
教科書 教材など	「コミュニケーション技術」中央法規	見出版							
実務経験	老健にて10年、居宅介護事業所	 こて3年従事				のある教員に 受業科目	よる		

科目名	生活	 支援技術	<del>.</del> T		1 ,,	学科名	介護福祉学			授業方法	 演習
		富海子	•	近藤	<del></del>	•		·····································	60 時間	必須·選択	
	生活	生活行為を成立させるための技術として、移動・身支度・食事・排泄等の介護実践において、安全性・自立性・介護予防の視点から、原理・原則・法則性に基づいた基本技術の習得を演習・講義により教授す									
到達目標	②身· ③身· 護、i	①身体機能低下が及ぼす生活障害の理解 ②身体の仕組みや機能についての理解 ③身体状態の観察技術、コミュニケーション技術、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介 護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた睡眠の介護等の生活行為を成立させる技術の習得									
						授業計	画∙内容				
第1週	生活	支援技術	うの構	造的	理解(原理	Ľ·原則·法則	川性)				
第2週	身体	機能低下	が及	ばす	生活障害の	の理解					
第3週	心身	の状態、	生活	状態(	<b>のアセスメ</b>	ント技法					
第4週	ベット	「メーキン	グの	実習の	とベッド上の	の臥床経験					
第5週	ボデ	ィメカニク	スの	理解と	と活用技術	Ī					
第6週	身体	の仕組み	の理	解と何	本位変換技	支術					
第7週		に向けた 技術)外!			護、トランス	スファの基本	技術、《歩行	・、車いす、	ストレッチャ	一、杖歩行等	等の移動・
第8週	安全	の確保と	、自立	立にも	けた食事	の介護技術	(誤燕防止 <i>0</i>	)姿勢保持	、食欲喚起	)	
第9週					けた排泄 ミ禁時の対		(排泄状態に	に応じた援助	助技法、排剂	世の自立度に	に応じた衣
第10週	安全	と確保と	自立に	こむに	ナた入浴・氵	青潔保持の	介護技術(入	浴介護∙清	拭介護)		
第11週	安全	の確保と	自立	に向い	けた身支度	<b>どの介護技術</b>	析(臥床状態	でのリネン	交換)		
第12週	安全	の確保と	自立	に向い	ナた休息・	睡眠の介護	技術				
第13週	人生	の最終段	階に	おけん	る介護技術	ħ					
第14週	まとぬ	<i>b</i>									
第15週	まとぬ	カ試験									
評価方法	レポ-	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する									
教科書 教材など		「生活支援技術Ⅰ」「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版									
実務経験	高齢:	者福祉施	設で	の介	護業務の	経験あり。介	`護福祉士の	免許取		のある教員に 受業科目	よる

	2020—1	<u> </u>	可じし		• /				
科目名	生活支援技術Ⅱ(家政学)	学科名	介護福祉学	!科		授業方法	演習		
担当教員	幸坂 寛子	学年·学期	1年•前期	時間数	60 時間	必須·選択	必須		
授業概要 ・ 授業内容	要介護者の心身の健康の保持とほについて教授する。 ライフサイクル								
到達目標	①心身の機能と住環境整備の知識と生活支援技術の習得 ②心身の機能と衣生活の知識と生活支援技術の習得 ③心身の機能と食生活の知識と生活支援技術の習得 ④尊厳保持と生活の質の維持向上のための衣食住の重要性と生活支援技術の習得								
		授業計	画∙内容						
第1週	生活の継続性を支援し、対象者個	々に応じた	家事を自立的	的に行うこと	≤の生活支持	爰技術			
第2週	心身機能の低下と家政管理								
第3週	住生活(1)バリアフリーとユニバー	サルデザイ	ン						
第4週	住生活(2)快適で安全な住環境と	整理•整頓、	掃除						
第5週	住生活(3)生活の質の向上と介護	負担軽減の	ための住宅	改修、福祉	:用具の活用	Ħ			
第6週	住生活(4)体験学習:住宅改修、社	<b>国祉用具</b>							
第7週	食生活(1)調理の基本:材料の選	び方、下処理	里、軽量、加	熱、調味					
第8週	食生活(2)調理の基本:食中毒の	予防							
第9週	食生活(3)調理の基本:生活習慣	予防のため	の食事・高齢	謝の食事					
第10週	食生活(4)楽しくおいしい食事:食	事形態、盛り	り付けの工夫	、食卓の演	出				
第11週	衣生活(1)自立を支援する着やす	いデザイン、	素材の選択	?					
第12週	衣生活(2)衣類の洗濯								
第13週	衣生活(3)衣類の繕い、収納、衣								
第14週	衣生活(4)尊厳と自立を支える装し	ハと介護の役	 设割						
第15週	まとめ 試験								
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状	 :況および学	習の理解度	、関連知識	の理解度で		価する		
教科書 教材など	「生活支援技術 I 」中央法規出版								
実務経験						のある教員に 受業科目	こよる		

科目名	生活支援技術Ⅲ	学科名	介護福祉学		• /	授業方法	 演習	
担当教員	増見 富海子 · 小野 史恵 · 近藤 舞	学年·学期	1年・後期	時間数	60 時間	必須·選択	必須	
授業概要 ・ 授業内容	生活行為を成立させるための基本 について教授する。感染防止、介記						末期の介護	
到達目標	① 自立に向けた清潔の介護技術の習得(入浴・洗髪・清拭の介護) ② 安全・安楽の介護技術の習得 ③ 休息・睡眠の自立に向けた医療対応時の介護技術の習得(医療との連携、記録、報告の技術) ④ 自立にむけた服薬の介護に必要な技術の習得(医療との連携、記録、報告の技術) ⑤ 緊急時の介護技術の習得 ⑥ 人生の最終段階における介護に必要とされる環境整備、医療との連携の技術の習得 ⑦ 災害時の介護、チームケアの意義の理解 ⑧ 感染防止・介護予防の介護技術の習得							
		授業計	画・内容					
第1週	自立に向けた清潔の介護(入浴)・	(洗髮)						
第2週	自立に向けた清潔の介護(清拭)・	(洗髮)						
第3週	自立に向けた安全・安楽の介護							
第4週	休息・睡眠の介護							
第5週	福祉用具の意義と活用:介護ロボ	ット、ITの活	用					
第6週	医療対応時の介護(医療との連携	、記録、報台	告の技術)					
第7週	服薬の介護							
第8週	緊急時の介護							
第9週	終末期の介護に必要とされる環境	整備、医療	との連携の	支術				
第10週	感染防止・介護予防(医療との連携	隽、記録、報	告の技術)					
第11週	介護事故とリスクマネジメント							
第12週	災害時の介護と多職種連携							
第13週	腰痛予防の介護方法							
第14週	まとめ、到達度評価:実技							
第15週	まとめ、到達度評価:筆記試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状	況および学	習の理解度	、関連知識	の理解度で	『総合的に評	価する	
教科書 教材など	「生活支援技術I」「生活支援技術	 fⅡ」中央》	去規出版					
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の写 養護教諭の資格を取得/特別養護老ノ					のある教員に 受業科目	こよる /	

科目名	上活支援技術 V (手話·点字)	学科名	介護福祉学			授業方法	演習		
担当教員	岡山県聴覚障害者福祉協会(手話) 金光 英子・野方 和一(点字)	•	1年•後期	 時間数	30 時間	必須·選択	必須		
授業概要 ・ 授業内容	介護を必要とする対象の理解やコ用者や利用者家族、あるいは多職う。								
到達目標	達目標 特性に応じたコミュニケーション技術の習得 ・自立を支援するための特性に応じたコミュニケーション 技術について理解する。 ・手話で日常会話が出来る ・日本文の点訳と点訳の用具の理解								
		授業計	画•内容						
第1週	オリエンテーション								
第2週	自立を支援するための介護と聴覚	障がい者の	)特性に応じ	た表現とは					
第3週	手話の歴史と基礎知識								
第4週	手話の基礎知識								
第5週	日常会話								
第6週	日常会話								
第7週	聴覚障がい者の生活、会話と生活	支援							
第8週	まとめ								
第9週	オリエンテーション、授業内容								
第10週	自立を支援するための介護と視覚	障害の特性	に応じた表	現方法とは	,				
第11週	点字の歴史と基礎知識								
第12週	点字の構成・凹面と凸面・数字とア	゚ルファベット							
第13週	かなづかいと文節、分かち書き(凹	面、凸面)							
第14週	点字を読む、点訳の点検								
第15週	まとめ								
評価方法	小テスト、出席状況、実技により総	合的に評価	īする						
教科書 教材など	手話:聴さんと学ぼう 点字:適宜資料、点字器								
実務経験						のある教員に 受業科目	こよる		

2023年及 授未計画(ンプハス)									
科目名	レクリエーション活動支援法	学科名	介護福祉学	:科		授業方法	演習		
担当教員	秋政 邦江	学年·学期	1年•後期	時間数	30 時間	必須·選択	必須		
授業概要	   障がい児・者や高齢者が能力を活   ティ)の理論に基づき、企画・立案:   生活支援、レクリエーション活動を   ポーツ指導の方法について、実技	方法を身に 様々な場面	つける。利用 で応用できる	者一人ひとることや障が	りの心身の い児・者や	)活性化のた )高齢者を対	めの日常		
到達目標	老齢や障害による生活の不自由さを理解するとともに、普通の生活を送ることができるように個々の残存能力を活用して、自尊心や有用感、達成感を感じることができるような支援の方法が理解できる。また、快適な生活環境を整え、利用者の心身の生活の活性化のための日常の生活支援(アクティビティ・サービス)方法およびスポーツ指導の方法を習得する。								
		授業計	画•内容						
第1週	レクリエーションからアクティビティ	サービスへの	の理論の展	開					
第2週	高齢者、障害児・者にとっての日常	の生活支持	爰とレクリエ-	ーション援助	ל				
第3週	高齢者、障害児・者へのスポーツ技	<b>指導の理論</b> 。	とは						
第4週	利用者と援助者(施設、在宅にお	けるレクリエ	ニーション援助	助)					
第5週	レクリエーションの基本援助技術 ]	一日常生活	舌支援とコミニ	ュニケーショ	ョン				
第6週	レクリエーションの基本援助技術 I	[ 一生活環均	竟の整備(「a	大」、「食」、	「住」)				
第7週	高齢者のスポーツの捉え方やその	)意義、理念	•						
第8週	障がい児·者のスポーツの捉え方·	やその意義	、理念						
第9週	レクリエーション援助と安全管理								
第10週	高齢者、障害児・者スポーツと安全	管理							
第11週	レクリエーションプログラムの展開	の方法につ	いて学ぶ						
第12週	高齢者スポーツ指導プログラムの	展開の方法	について学ん	<b>ડ</b> ેં					
第13週	障害児・者スポーツプログラムの原	<b>関の方法</b> に	こついて学る	`					
第14週	スポーツ指導におけるボランティア	'活動の必要	₹性:ボランテ	イア精神と	活動の基本	×姿勢 I			
第15週	スポーツ指導におけるボランティア	'活動の必要	₹性:ボランテ	イア精神と	活動の基本	姿勢Ⅱ			
評価方法	出席状況・授業態度・試験等を総合	合的に評価*	する						
教科書 教材など	「楽しさをとおした心の元気づくり -	・レクリエー・	ション支援の	理論と方法					
実務経験						のある教員に 受業科目	よる		

科目名	介護過程総論		学科名	介護福祉学			授業方法	 講義	
担当教員	近藤 舞		学年•学期	1年•前期	時間数	30 時間	必須·選択	必須	
授業概要 ・ 授業内容	介護過程の意義、目 われるのかを、その								
到達目標	①本人の望む生活を実現するための介護実践における介護過程の意義・目的が理解できる ②介護実践において、必要な情報収集を行い、内容や方法を計画し、実施、評価する一連の介護過程 の展開を理解する								
			授業計	画·内容					
第1週	オリエンテーション								
第2週	介護過程の意義								
第3週	介護過程の目的								
第4週	介護過程の展開の標	既要							
第5週	介護過程の展開Ⅰ	アセスメントと	:情報収集						
第6週	介護過程の展開Ⅱ	情報の解釈・	関連付け・	<b>充合</b>					
第7週	介護過程の展開Ⅲ	課題の明確化	<mark></mark> ኒ						
第8週	介護過程の展開Ⅳ	計画の意義、	目標の設定	2					
第9週	介護過程の展開V	支援の内容・	方法						
第10週	介護過程の展開Ⅵ	実施の準備・	留意点・把持	屋					
第11週	介護過程の展開Ⅷ	モニタリング							
第12週	介護過程の展開呱	評価と修正							
第13週	介護過程の展開区	記録の書きた	ī、ICFの視り	点と介護過程					
第14週	介護過程の展開X	記録の書きた	ī、ICFの視り	点と介護過程					
第15週	まとめと到達度評価								
評価方法	レポート、試験、授業	<b>美態度、出席</b> 状	:況および学	習の理解度	、関連知識	の理解度で	5総合的に評	価する	
教科書 教材など	「介護過程」中央法	規出版							
実務経験	特別養護老人ホーム	ムにて現場経馬	 倹あり				のある教員に 受業科目	よる	

科目名	介護過程展開論	学科名	介護福祉学			授業方法	 講義		
	増見 富海子		1年・後期	<u>· '</u> 時間数	30 時間	必須•選択	<u> </u>		
授業概要授業内容	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について、具体的事例を通してその方法を教授する。介護過程におけるチームアプローチの必要性や連携方法について事例を基に論じる。								
到達目標	①介護過程を概念化し理論化し、体系立てて理解できる。 ②利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開方法が理解できる。								
		授業計	画·内容						
第1週	オリエンテーション								
第2週	介護過程の実践的展開								
第3週	「アセスメント」の実際 I ー 認知	症							
第4週	「アセスメント」の実際 II – 内部	障害							
第5週	「アセスメント」の実際Ⅲ – コミュ	ュニケーショ	ン障害						
第6週	「アセスメント」の実際Ⅳ – 精神	障害							
第7週	「アセスメント」の実際∇ – ター	ミナル							
第8週	「介護過程」展開の実際 I ー 高	齢者施設(物	寺養・老健・ク	ブループホ-	-ムを含む)				
第9週	「介護過程」展開の実際Ⅱ - 障	害者(児)施	設(身体障害	者療護施討	殳·重症心身	∤障			
第10週	「介護過程」展開の実際皿 - 在	宅							
第11週	「介護過程」展開の実際IV - 地	域における	介護ニーズ						
第12週	介護過程とチームアプローチI-	介護過程と	ケアマネジメ	ントの関係	:				
第13週	介護過程とチームアプローチⅡ-	チームアプロ	コーチの意義	ŧ					
第14週	介護過程とチームアプローチⅢ-	サービス担	当者会議につ	ついて					
第15週	まとめと到達度評価								
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する								
教科書 教材など	「介護過程」中央法規出版								
実務経験	特別養護老人ホームにて現場経験	 倹あり				のある教員に 受業科目	よる		

科目名		学科名	介護福祉学		· ·	授業方法	実習		
担当教員	近藤 舞 · 五嶋 幹雄・ 増見 富海子 · 小野 史恵		1年•前期	時間数	64 時間	必須·選択	必須		
•	地域における施設の役割・機能を人・家族とのコミュニケーションを通能を理解する。各領域で学んだ知	<b>通して信頼関</b>	係の構築方	法を学ぶ。	介護福祉士	に求められ	る役割と機		
到達目標	①施設の概要を理解する②観察やコミュニケーションを通して対象者の生活を理解する③職員と対象者 との援助関係を理解する④対象者の障害の程度を正しくとらえ、身体的特性を理解する⑤介護の需要 に関する理解力、判断力を養う⑥介護職員の業務内容を理解する								
		授業計	画•内容						
第1週	①朝礼に参加し、業務の引継ぎ体	験一報 <del>告</del> ・	連絡∙相談−						
第2週	②施設の行事やレクリエーションに	参加一生活	舌の中で実施	色するリハビ	りや楽しみ	の実際一			
第3週	③本人・家族とのコミュニケーション	ノによる信頼	質関係の構築	£					
第4週	④施設における対象者の生活リズ	ぶムの理解							
第5週	⑤施設の役割・機能と施設で働く	専門職の役割	割・機能の理	]解					
第6週	⑥障害の程度、個別性を尊重した	介護技術の	実践場面の	見学					
第7週	⑦対象者の生活上の利便性の向.	上と介護職」	員の負担の	軽減のため	の福祉用具	lの活用の実	!際		
第8週	8実習反省会に参加し、司会、発	表の実施							
第9週									
第10週									
第11週									
第12週									
第13週									
第14週									
第15週									
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実	習記録およ	び学習の理	解度、関連	[知識・技術	の理解度			
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法	規出版	「介護実習 <i>の</i>	手引き」					
実務経験	高齢者福祉施設等経験あり。					のある教員に 受業科目	よる		

科目名	介護実習Ⅱ	学科名	介護福祉学		· ,	授業方法	実習		
担当教員	・・・・・・   ・		1年•後期	時間数	86 時間	必須·選択	必須		
授業概要 - 授業内容	個々の生活リズムや個性を理解するために様々な場における個別ケアを理解し、本人・家族との関係構築のためのコミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得させる。地域におけるさまざまな場において対象者の生活を理解し、ニーズに応じた居宅サービスの実際について理解させる。各領域で学んだ知識・技術を統合し、介護実践に必要な観察力、判断力を養う。								
到達目標	①本人・家族との相互理解・信頼関係の構築のためのコミュニケーションを習得する。 ②障害のレベルに応じて求められる適切な介護技術を習得する。 ③介護を助ける住設備機器や福祉用具の知識と活用能力を養う。 ④地域で生活する対象者の生活上の需要を知り、居宅介護サービスの実際を理解する。								
		授業計	画·内容						
第1週	①朝礼に参加し、業務の引継ぎ体	験一報告•∃	連絡∙相談−	-					
第2週	②施設の行事やレクリエーションに	参加一生活	舌の中で実施	色するリハビ	リや楽しみ	の実際一			
第3週	③本人・家族とのコミュニケーション	ノによる信頼	質関係の構築	£ .					
第4週	④地域における対象者の生活ニー	-ズと訪問介	`護・デイサ-	ービスの実際	祭				
第5週	⑤地域における事業所、機関の役	∶割∙機能							
第6週	⑥障害の程度、個別性を尊重した	介護技術の	)実践場面 <i>の</i>	見学と指導	のよる実施	<u>ī</u>			
第7週	⑦対象者の生活上の利便性の向.	上と介護職」	員の負担の	軽減のため	の福祉用具	lの活用の実	!際		
第8週	8実習反省会に参加し、司会、発	表の実施							
第9週									
第10週									
第11週									
第12週									
第13週									
第14週									
第15週									
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実	習記録およ	び学習の理	解度、関連	知識•技術	の理解度			
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法	規出版	「介護実習 <i>の</i>	手引き」					
実務経験	高齢者福祉施設等経験あり。					のある教員に 受業科目	よる		

科目名		学科名	介護福祉学		·•	授業方法	 演習		
担当教員	近藤 舞 · 五嶋 幹雄 · 増見 富海子 · 小野 史恵		1年•前期	時間数	30 時間	必須·選択			
授業概要 ・ 授業内容									
到達目標	①介護実習の意義・目的について理解する ②介護実習を通じて、学校内で学んだ知識、技術、態度を具体的かつ実際的に理解する ③施設の機能、役割、そこにおける介護福祉職の機能、役割を理解する ④施設で生活する人の需要と施設での生活について理解する								
		授業計	画•内容						
第1週	施設介護実習の目的の理解								
第2週	介護実習施設の概要及び利用者の	の理解							
第3週	介護実習施設での介護サービスの	)機能、役害	及び関係法	令等の理解	件				
第4週	施設介護実習で必要な知識、技術	うの理解(コミ	ュニケーション技	術、観察技術	析、介護技術	うなどのロー	ルプレイ)		
第5週	介護実習Iの目標、課題の明確化	<b>Ľ</b>							
第6週	介護実習 I における実習計画書の	D作成							
第7週	実習記録の意義や記載方法の理	解							
第8週	施設介護実習における諸注意(実	習生の心得	*、利用者の	プライバシー	-保護、守秘	義務など)			
第9週	介護実習Ιでの体験の共有化とス	スーパービジ	ション						
第10週	介護実習Ιでの体験の共有化とス	スーパービジ	ション						
第11週	介護実習レポートの作成指導								
第12週	介護実習 I の振り返りとスーパー	ビジョン							
第13週	介護実習 I の自己評価とスーパー	ービジョン							
第14週	介護実習 I のまとめ								
第15週	介護実習Ⅱに向けての課題の明確	<b>雀化</b>							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実	習記録およ	び学習の理	!解度、関連	[知識・技術	の理解度			
教科書 教材など	「介護総合演習·介護実習」中央法	 :規出版	「介護実習 <i>の</i>	 )手引き」					
実務経験	高齢者福祉施設等経験あり					のある教員に 受業科目	こよる		

科目名	介護総合演習 II	学科名	介護福祉学			授業方法	演習	
担当教員	近藤 舞 · 五嶋 幹雄 · 増見 富海子 · 小野 史恵	学年•学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須·選択	必須	
授業概要	■   の事例報言云まには美首期间中に子生が食成施設寺にあいて子首する口を計画的に設けるなど、夫   -   翌に必要な知識や技術   企業過程の展開の能力等について   個別の学習列達代源に広じた総合的な							
到達目標	①学校内で学んだ知識、技術、態度が介護実践の場において具体的に理解できる ②言語的コミュニケーション及び非言語的コミュニケーションを活用し利用者との介護関係が形成できる ③介護職員の介護実践の観察と職員の指導の下に実践することで、学校内で習得した各領域の知識と 技術の統合を図る ④地域で生活する人の生活上の需要を知るとともに居宅サービスの実際を理解する ⑤地域における多職種協働や機関との連携の必要性について理解する							
		授業計	·画·内容					
第1週	施設・訪問介護実習の目的の理解	<b></b>						
第2週	介護実習施設ならびに居宅サービ	この概要及	なび関係法令	の理解				
第3週	介護実習施設ならびに居宅サービ	ぶの対象者	6の身体的∙	精神的∙社会	会的特徴の	理解		
第4週	介護実習施設ならびに居宅サービアプローチの方法の理解	これにおける	多職種の業	務内容・範	囲及び介護	福祉士の役	割やチーム	
第5週	地域における居宅サービス事業所	で機関の役	设割や機能 <i>0</i>	)理解				
第6週	介護関係の形成の理解(プロセス	レコードの書	書き方、対象	者との関わ	り方の考察	)		
第7週	介護実習の狙い・抱負について							
第8週	介護実習Ⅱの目標、課題の明確側	۲						
第9週	介護実習Ⅱにおける実習計画書の	)作成						
第10週	介護実習での体験の共有化とスー	-パービジョ	ン(帰校日指	(導)				
第11週	介護実習での体験の共有化とスー	-パービジョ	ン(実習事後	:指導)				
第12週	居宅訪問実習準備-個人票・記録(	の書き方						
第13週	居宅介護実習準備-訪問介護の実	『際(掃除・記	周理•訪問時	・辞去すると	とき等)			
第14週	居宅介護実習での体験の共有化と	ヒスーパーヒ	ごジョン					
第15週	介護実習Ⅱのまとめと介護実習Ⅲ	に向けての	課題の明確	化				
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実	習記録およ	び学習の理	解度、関連	[知識∙技術	の理解度		
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法	規出版	「介護実習 <i>0</i>	手引き」				
実務経験	高齢者福祉施設等での経験あり					のある教員に 受業科目	よる	

	202347	又汉木			• /				
科目名	精神保健	学科名	介護福祉学	:科		授業方法	講義		
担当教員	岡崎 利治	学年•学期	1年・後期	時間数	30 時間	必須·選択	必須		
授業概要 ・ 授業内容	精神保健について、第1に自分を見 こころとからだのしくみについての意 課題や事象について教授する。精 ついても概観し、精神保健について	知識を教授 <sup>·</sup> 神医学の概	する。支援を [要、精神医	必要とする 寮の実情に	人の心の優 ついての基	健康を中心に 。礎知識や法	現代的な		
到達目標	精神医療の基礎知識、法律、制度について理解する。支援を必要とする人の心の健康を中心に、こころ のしくみの理解ができる。現代的な課題や事象について理解する。事例を通して、人間関係の視点から、誰にでも起こり得る出来事として捉えることができる。								
		授業計	画·内容						
第1週	オリエンテーション								
第2週	精神保健の基礎知識								
第3週	介護現場での精神保健活動								
第4週	自分を見つめる								
第5週	他者とのかかわり方とこころのしく	みの理解							
第6週	支援を必要とする人の心の問題1								
第7週	支援を必要とする人の心の問題2								
第8週	介護従事者の心の健康1								
第9週	介護従事者の心の健康2								
第10週	現代社会と心の問題1								
第11週	現代社会と心の問題2								
第12週	主な精神症状と精神疾患								
第13週	介護現場と精神保健								
第14週	介護実践に必要なこころのしくみの	)知識							
第15週	まとめ								
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)に。	より評価する	, , ,						
教科書 教材など	精神保健の課題と支援								
実務経験						のある教員に 受業科目	よる		

科目名	解剖生理学	学科名	介護福祉学			授業方法	 講義		
	住居広士		1年•前期	時間数	30 時間	必須・選択	 必須		
授業概要	介護福祉士に必要な人体の解剖学と生理学を学ぶ。								
到達目標	⑦介護実践に必要な観察力、判断の基礎となる人体の構造と機能の基礎的理解ができる。 ②正常な人体の構造(解剖学)と生命のしくみ(生理学)について理解する。								
		授業計	画∙内容						
第1週	はじめに:心身機能と身体構造の	既要							
第2週	細胞と組織								
第3週	人体の器官系								
第4週	外皮系と人体を構成する膜								
第5週	骨格系								
第6週	骨格筋系								
第7週	神経系								
第8週	感覚								
第9週	内分泌系								
第10週	血液、リンパ系と免疫								
第11週	循環器系								
第12週	呼吸器系								
第13週	消化器系								
第14週	国際生活機能分類(ICF)の基本的	考え方と概念	要 要						
第15週	人の成長・発達								
評価方法	: 試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。								
教科書 教材など	「こころとからだのしくみ」中央法規	出版							
	医師としての実務経験、教育経験あり 福祉士免許取得	。 医師免討	·社会福祉士	免許·介護		のある教員に。 受業科目	よる		

科目名	老年医学		介護福祉学		• •	授業方法	講義		
	住居 広士	•		<del>111</del>  時間数	30 時間	必須•選択			
授業概要	住居 広士   学年・学期   1年・前期   時間数   30 時間   必須・選択   必須   人間の発達の観点から老化と老化に関する心理や身体機能の変化の特徴について教授する。老年医学の主要疾患とその症候について、臨床面からみてとくに重要と考えられる基礎的事項を教授する。人間の成長と発達の基礎的知識を教授する。								
到達目標	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解できる。人間の成長と発達の基礎的な理解ができる。老化現象の機構、老年期に特有の病態やこころとからだのしくみについて理解する。								
			 ·画 • 内容						
第1週	老年医学序論(1)(人間の成長と多	発達の理解、	老化とはなり	こか)					
第2週	老年医学序論(2)(老年者と老年症	病、老年期 <i>σ</i>	)発達の成熟	)					
第3週	老年臨床医学総論 老年病の特徴	数							
第4週	老年者の神経疾患、精神疾患、不	眠症							
第5週	老年者の循環器疾患								
第6週	老年者の呼吸器疾患								
第7週	老年者の消化器系疾患、機能の促	氏下・障害が	及ぼす食事	への影響					
第8週	機能の低下・障害が及ぼす整容行	動への影響	<b>事</b>						
第9週 ————	老年期特有の病態(1)泌尿器疾患	、腎不全							
第10週 ————	老年期特有の病態(2)代謝疾患・			患 					
第11週	老年期特有の病態(3)骨粗鬆症、 	骨•運動器៖	<b></b> 美患						
第12週 ————	高齢者と健康 								
第13週	老化に伴うこころとからだの変化と		w <u>+</u> - · · -						
第14週	老年者に特有の病態とその対応(	《老年症候郡	‡•廃用症候ネ ───	詳)					
第15週 ———	エイジズム、安楽死、尊厳死								
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。								
教科書 教材など	「こころとからだのしくみ」中央法規								
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり 福祉士免許取得	」。 医師免討	+・社会福祉士	免許·介護 		のある教員に 受業科目	よる /		

科目名	発達と老化の理解   学科名   介護福祉学科   授業方法   講義							
	小野 史恵			·····································	必須•選択			
授業概要授業内容	小野 史恵 学年・学期 1年・前期 時間数 30 時間 必須・選択 必須 老年期の発達と成熟、老年期の心理的・社会的・身体的な特徴について教授する。老化に伴うこころと 体の変化と日常生活の変化、高齢者の生活課題と援助の特徴、高齢者と健康について講義する。							
到達目標	老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。							
		授業計	画∙内容					
第1週	人間の成長と発達の基本的理解	ヒライフサイ	クル I (乳幼)	児期·学童	期・思春期	)		
第2週	人間の成長と発達の基本的理解。	ヒライフサイ	クル II (青年:	期、成人期	人老年期)			
第3週	老年期の定義と発達課題							
第4週	老年期の心理的特徴							
第5週	老年期の身体的特徴							
第6週	老年期の社会的特徴							
第7週	老化に伴う精神的機能の変化の特徴							
第8週	老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響							
第9週	老化に伴う知的・認知機能の変化と日常生活への影響							
第10週	老化に伴う社会的役割の変化と日	老化に伴う社会的役割の変化と日常生活への影響						
第11週	高齢者の生活環境の変化と心理的	高齢者の生活環境の変化と心理的影響(友人や配偶者との死別・同居のための移転など)						
第12週	高齢者の生活課題と援助の特徴	(孤独死•老	々介護・健康	₹不安·経済	各不安など)			
第13週	高齢者の社会参加とQOL(老人会	・シルバー	ドランティア <b>・</b>	介護予防な	ほど)			
第14週	高齢者の疾病の特徴と日常生活における健康管理							
第15週	まとめ 試験							
評価方法	試験と提出物、出席状況等で評価する							
教科書 教材など	「発達と老化の理解」中央法規出版	版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の 養護教諭の資格を取得	実務経験あり	。また、看護師	ī∙保健師∙		のある教員に 受業科目	よる	

科目名	認知症ケア論Ⅰ	学科名	科名  介護福祉学科        授業方法  講						
担当教員	川上 道子	学年•学期	1年・後期	時間数	必須·選択	必須			
-	わが国は少子高齢社会が久しく続いているが、認知症の方も増える一方である。近年になって先進国の研究やケアを取り入れ、認知症当事者の声も政策に反映されるようになってきた。2024年に初めての治療薬が承認されてはいるが、使用対象者は限定的である。非薬物療法にも期待されるが、まだまだ今後の実践研究が待たれるところである。この科目は、認知症の基本的な医学的知識やケアの考え方を実践に繋がるような内容にしたい。								
到達目標	I 認知症の基礎的理解 1. 認知症のある高齢者の現状と今後 2. 認知症とは何か 3. 脳のしくみ 4. 認知症の人の心理 II 認知症の症状・診断・治療・予防 1. 中核症状の理解 2. 生活障害の理解 3. BPSDの理解 4. 認知症の診断と重症度 5. 認知症の原因疾患と症状・生活障害 6. 認知症の治療と予防 7. 認知症ケアの歴史と理念								
第1週	認知症の基礎的理解(認知症のあ	—— る高齢者 <i>の</i>	現状と今後	)					
第2週	認知症の基礎的理解(認知症とは	(何か)							
第3週	認知症の基礎的理解(脳のしくみ)	)							
第4週	認知症の基礎的理解(認知症の)	(の心理)							
第5週	認知症の症状・診断・治療(中核症	   認知症の症状・診断・治療(中核症状の理解)							
第6週	認知症の症状・診断・治療(中核症状の理解)								
第7週	認知症の症状・診断・治療(BPSDの理解)								
第8週	認知症の症状・診断(認知症の診断と重症度)								
第9週	認知症の症状・診断・治療(認知症の原因疾患と症状 アルツハイマー型認知症・生活障害)								
第10週	認知症の症状・診断・治療(認知症の原因疾患と症状 血管型・レビー小体型・前頭側頭型・生活障害)								
第11週	認知症の症状・診断・治療・予防(認知症の原因疾患と症状 その他の原因疾患・生活障害)								
第12週	認知症の薬物治療と予防								
第13週	認知症ケアの歴史と理念								
第14週	認知症ケアの歴史と理念								
第15週	まとめ 試験								
	1. 試験 60点 2. リアクションペーパー・ノート等( 3. 授業態度 意欲 20点 上記を合計し、60点以上を合格と		0点						
教科書 教材など	「認知症の理解」中央法規出版								
実務経験	医療法人にて看護業務の現場経	験あり 看護	師免許			のある教員に 受業科目	よる		

科目名	障害の理解 I 学科名   介護福祉学科   授業方法   講義								
	佐藤 伸隆	1112 11.00					必須		
授業概要授業内容	佐藤 伸隆 学邦								
到達目標	〇障害(者)観や障害理念の歴史から、ICF.の意義と今日的な障害概念を理解する。 〇障害者権利条約がわが国の法制度・サービスに、どのように反映されているかを把握する。 〇障害者児に関する福祉サービス、関連する諸サービスの概要を理解する。 〇介護福祉士として、障害者の尊厳を保持し、生活全体をとらえた支援を行うための視点を得る。								
		授業計	画•内容						
第1週	「障害」とは何か:社会モデル、ICF、障	害者権利条	約、障害の定	義と種類					
第2週	「障害(者)」観と障害理念:差別・偏見	・排除、障害	者運動、ノーマラ	イセ゛ーション、ネ	t会的包摂				
第3週	障害者権利条約とその視点:差別の勢	禁止、平等、自	自立、社会参加	口、社会的障	壁、合理的配	记慮、社会的包	摂		
第4週	障害を持つ人の権利擁護:福祉国家の	の機能と意味							
第5週	障害福祉サービス①: 障害福祉法体系、障害者基本法、障害者総合支援法								
第6週	障害福祉サービス②: 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法								
第7週	障害福祉サービス③: 児童福祉法、発達障害者支援法、難病法								
第8週	障害関連サービス①: 障害者虐待防止法、障害者差別解消法								
第9週	障害関連サービス②:障害者雇用促進法、バリアフリー法、補助犬法、障害者アクセシビリティ・コミュニケーション施策促進法等								
第10週	障害関連サービス③: 成年後見制度、日常生活自立支援制度、福祉型信託制度								
第11週	障害者児支援に関係する機関、実施	幾構∶行政機	関、施設·事業	所、特別支	援学校等、隨	章害者計画、実	施体制		
第12週	障害者支援に関わる団体: 当事者団体	本、家族会、	きょうだい会、i	運動団体、支	援団体等				
第13週	障害者支援に関わる団体: 当事者団体	本、家族会、	きょうだい会、i	運動団体 、 支	援団体等				
第14週	障害・障害者の理解に関する啓発方法	去:あいサポ-	−ト運動を例に						
第15週	まとめ 試験								
評価方法	授業意欲、積極性:20% 課題への取組み状況:20% 定期試験:60%、出席状況等で評	価する							
教科書 教材など	介護福祉士養成講座編集委員会	編『介護福祉	止士養成講座	至第2版	14 障害の	理解』中央法規	規出版		
実務経験	高齢者・障害者総合相談センター	、障害者権利	— <u>—</u> 利擁護センタ			のある教員に 受業科目	よる		

4.1 m ===================================	<del> </del>		[A =#+=+  +		•/	ا بالدائية	-4-	
科目名	障害の理解Ⅱ	学科名	介護福祉学	• •	1 .	授業方法	講	
担当教員	川上道子	学年•学期	1年•後期	時間数	30 時間	必須·選択	必	須
授業概要 ・ 授業内容	「障害の理解 I 」で法や制度を学ん。さらには、生活支援技術にも成求められている。多職種との連携題となっている。新たに加えられ変るが、視聴覚教材を用いながら分	を映する。現 を踏まえた 変更された法	状では、対象 舌動、特に地 ・制度にも関	食者の高齢 域での活動 心を持って	化も伴い、国力や家族のこ でないでほしている。	医療的な知識 支援について	も大き	断が eな課
到達目標	障害の概念や障害福祉の基本理1. 障害のある人の心理を理解する 1. 重複障害について理解する 7. 知的障害・精発達障害について理解する 10. 制並びにチームアプローチを理解ついて学ぶ。	る 2. 肢体 <sup>2</sup> こついて理解 神障害につ 難病につい	下自由(運動 gする 5.内 いて理解する て理解する	機能障害) 部障害につ 5 8. 高次服 11. 連携と	を理解する いて理解す 悩機能障害 協働につい	3. 視覚障害 る 6. 重症/ について理解 て、地域のサ	ቔ・聴覚 心身障 gする ナポー	党・言 害害に 9. ト体
		授業計	·画·内容					
第1週	障害児者の法・制度の振り返り							
第2週	障害児者の生活の概要							
第3週	障害別の基礎的理解と特性に応し	ンた支援(障	害のある人の	の心理)				
第4週	障害別の基礎的理解と特性に応し	ンた支援(肢	体不自由《週	<b>動機能障</b>	害》)			
第5週	障害別の基礎的理解と特性に応し	じた支援(視	覚障害∙聴覚	ღ・言語障害	<b>;</b> )			
第6週	障害別の基礎的理解と特性に応し	ンた支援(重	複障害∙重症	E心身障害 <sup>。</sup>	・医療的ケブ	7児)		
第7週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(内部障害《心臓機能・呼吸機能》)							
第8週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(内部障害《腎臓機能障害・消化器障害・HIV》)							
第9週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(知的障害・精神障害)							
第10週	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援(高次脳機能障害・発達障害)							
第11週	障害別の基礎的理解と特性に応し	シた支援(難	病《パーキン	ツン病・関係	節リウマチ個	也》)		
第12週	障害別の基礎的理解と特性に応し	シた支援(難	病《筋ジスト	ロフィー・AL	S他》)			
第13週	連携と協働について、地域のサポ	一卜体制並	びにチームフ	プローチ				
第14週	家族への支援を理解し、家族の介	き護力の評価	<b>町と介護負担</b>					
第15週	まとめ 試験							
評価方法	試験 60点 リアクションペーパー・ノート等記録 授業態度・意欲 20点 合計100点のうち、60点以上を合材							
	「障害の理解」中央法規出版 視聴覚教材・プリント等							
実務経験	医療法人にて看護業務の現場経	 験あり 看護	師免許			のある教員に 受業科目	よる	✓

科目名	介護情報リテラシー	24 TA D	A =#+ 1— 1.1 334	<b>-</b> .1		授業方法		
	<b>川 段 旧 TK ノ ノ ノ ク</b>	介護情報リテラシー 学科名 介護福祉学科 :					演習	<u> </u>
担当教員	近藤 舞	学年·学期	1年•前期	時間数	30 時間	必須·選択	必須	頁
授業概要	パソコンやインターネットとのかかに必要とされるパソコンの基本的理解したうえで、授業内容によってる。PCの操作スキルは、課題制作する。	な操作方法を PCを使った	を身につける。 :実習と知識の	。情報のモ D習得のた	ラル、セキ めの座学(	ュリティ、SNS こよって授業	につい を展開 <sup>-</sup>	いて す
到達目標	学生生活や卒業後の職業で生かすための基礎知識とPCの操作技術を習得する。 個人情報の取扱いや情報セキュリティについて習得する。 介護現場に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を習得する。							
			·画·内容					
弗 Ⅰ 週	オリエンテーション①情報収集とメ 適切な取り扱い、著作権など関連	する権利、流	去律					
	オリエンテーション②具体例:情報 スマートフォンの乗っ取りの脅威)		Fュリティ、SN	IS利用上(	の注意(ワン	ノクリック詐欺	7、偽警	告、
第3週	パソコンの基本操作1							
第4週	パソコンの基本操作2:情報管理(	ファイル、フ	オルダ管理)					
第5週	Office系ソフトの活用(1)Wordの基	本操作、指	示された書式	に沿った	学習			
第6週	Office系ソフトの活用(2)Wordの応	用操作、効	率的な文書の	作成				
第7週	Office系ソフトの活用(3)Excelの基	基本操作、簡	単な作表や	基本的な計	<b>上算、集計</b>			
第8週	Office系ソフトの活用(4)Excelの応用操作、複雑な計算、グラフ作成							
第9週	Office系ソフトの活用(5)Excelの応用操作、グラフ作成、編集							
第10週	情報コミュニケーションツールの活用(1)インターネット							
第11週	情報コミュニケーションツールの活	用(2)ネット	・ワーク					
第12週	プレゼンテーションソフトの活用(1	):プレゼン <del>1</del>	テーションソフ	トの役割				
第13週	プレゼンテーションソフトの活用(2	):発表用ス	ライドの作成					
第14週	プレゼンテーションソフトの活用(3	):発表会						
第15週	まとめ							
評価方法	課題の評価、確認テスト、出席状況	兄により評値	<u> </u>					
教科書 教材など	最初の授業で提示する							
実務経験						のある教員に 受業科目	よる	